

# ほっと

NPO法人 ほっと 会報

〒590-0048

堺市堺区一条通19・13 上塾ビル2階

☎ 072-228-3011 FAX 072-228-3012

E-mail npo-hot@nifty.com

NO. 57 発行：2024年（令和6年）3月12日

## ほっと “バレンタイン交流会”

### あっという間で、楽しかった～♪

バイオリン、ギター演奏あり、美味しい特製弁当 & 素敵なプレゼント♪

2月9日（金）夕方、ほっと主催で、“バレンタイン交流会”を開催しました。これまで、神戸のルミナリエ・ハートフルデイに参加して、みんなで楽しんでいた恒例の行事になっていました。しかし、この3年間、コロナ禍でルミナリエも中止。みんなで楽しむ取り組みができずにいました。

そこで、何か新しい企画を！と、今回初めて、皆さんに呼びかけて“バレンタイン交流会”を開催しました。急なご案内だったこともあり、どれだけの方々に参加して頂けるか心配しましたが、11名の仲間に加え、ご家族やガイドヘルパー、スタッフも入れて、総勢31名の参加で楽しめました。

会場となった、“森のキッチン”（堺市役所地下食堂）には、ある仲間とお母さんが作ってくれたカラーリングの飾りつけもあり、楽しい雰囲気です♪



“やった～” ビンゴでプレゼント♪



バイオリン&ギター演奏を満喫♪

まず、オープニングを飾って頂いたのは、杉村香起さんのギターと浅間かずこのバイオリンのコラボ演奏です。懐かしい曲とともに、アイルランドやスコットランド・北欧の調べをバイオリンで奏でくれました。

#### 【参加された仲間&ご家族の声】

- ・楽しかった♪とうぶの仲間に会えてうれしかった。ギター、バイオリン演奏が良かった。
- ・楽しかった♪ありがとうございました。
- ・とても楽しい時間を過ごさせて頂き、ありがとうございました。
- ・音楽も懐かしくて、楽しかった♪
- ・ありがとうございました。息子は、最初は緊張していて「楽しいかな？」と思いましたが、食事で少し気が緩み、ビンゴゲームは楽しんでいました。お弁当が美味しかったです♪
- ・友だちに「楽しいよ♪一緒にいこう！」と誘ってもらいました。あっという間で、楽しかったです♪お弁当も美味しかったです。ありがとうございました。
- ・久しぶりに懐かしい人たちに会えて、楽しい時間が過ごせ幸せな気持ちになりました♪寒い中、楽しい時をお世話頂きありがとうございます。

大盛り上がり♪  
ビンゴゲームで  
食事の後は、お楽しみの“ビンゴゲーム”です♪ビンゴになった人から、楽しみなプレゼントをゲットしていきます。



#### 【演奏して頂いたお二人から】

（バイオリン演奏された浅間かずこさん）

- ・楽しく皆さんと過ごさせて頂き、感謝です。

（ギター弾き語りの杉村香起さん）

- ・楽しかった♪目の前で聞いてくれていた仲間に、「チョコレート上げる人は？」って聞いたら、「もう上げた！」と言われました。仲間の笑顔がたくさん見られて嬉しかったです♪

すてきな音色にみんなウットリです。アンコールの声にこえて、いつも唄っている“ともだち”の歌です。みんなで一緒に、思いっきり歌って楽しめました。

音楽で豊かな気持ちになったところで、“森のキッチン”ご自慢の特製弁当です。とても美味しく、みんな大満足♪

いち早く「リーチ」になっても、肝心の「ビンゴ」にはなかなかならず、アチコチに逆転劇が！ワイワイ言いながら大盛り上がりでした♪全員がビンゴになって終了♪

参加者全員が、プレゼントをもらってみんな笑顔でした。

## 精神科病院の課題と地域生活を支える精神科医療のあり方

養島豪智氏（いわくら病院長）が講演

2月21日、堺市総合福祉会館で開かれた堺障害者フォーラム（SDF）主催「第11回つどい」の堺のまちで暮らし続けるために「」に参加させて頂きました。

### 王子の精神科病院での暴行・虐待の実態を上映

第1部は、NHKクロージアッブ現代で放映された「滝山病院事件」の上映。精神科病院・滝山病院での生々しい暴行、虐待の実態が映し出されました。この病院では、暴行や身体拘束が常態化しているとの告発です。なぜ、こうしたことが繰り返



されるのか？背景には、精神科病院という閉ざされた場所。また長期入院があるとの指摘です。

### 入院中心の現在の精神科医療の転換を

第2部の講演は、「精神科病院の課題と地域生活を支える精神科医療のあり方」と題して養島豪智先生（京都・いわくら病院院長）がお話しされました。

先生は、「入院中心の現在の精神科医療を転換できるはずだ」と考え続けておられる方で、この3月末でいわくら病院院長を辞職して、愛媛県にある「御荘診療所」で働かれるとのこと。

「自分が経験してきたこと、これから目指したいことをお話することが、滝山病院に象徴される精神科医療の大きな課題を考えるうえでヒントになる」と考えるからだと述べ、お話しされました。

以下、先生のお話の抜粋を記します。

### 精神科医療の歴史は、閉鎖環境からの開放

どこの国でも、精神科医療は閉鎖からはじまった。精神科医療の改革の歴史は、この閉鎖環

境が患者さんの人権を侵害するものだと考えて、開放することであった。

そこで、先生が最初に勤めた公立豊岡病院は、この開放化運動、開放医療の日本での先駆けの一つだった。京都に戻って勤務したいわくら病院も、開放化運動、開放医療を全国に先駆けで取り組み、維持している病院であり、「その次にどういうあり方を目指すのか」を模索中でした。

### イタリアでは、改革で精神科病院が、ない！

そんな時に、イタリア精神科医療の見学ツアーに参加しました。これが強烈な印象でした。イタリアでは、精神医療改革で精神科病院はなくなっていました。「精神科医療」から、「精神保健」へ。さらには「病

気」ではなく、「生きる苦しみがある」のだという考え方です。圧倒されました。イタリア精神科医療のキーワードの一つに「脱制度化」があります。病院、入院を必要とする制度を超えていくのです。実は、この考え方はイタリア社会の広くいろんな場面に通底していると感じます。

### 日本の実態と疑問が

日本に帰ってからは、患者さんを医療として診るだけではない、その人自身、その人全体に

出会いたいという欲求が強くなってきました。

そうすると「こんなにも素晴らしい側面を持つておられる方たちが、どうして入院を続けていないといけないのか」と、疑問を感じるようになりました。

開放化、開放医療というのは精神科医療改革の大きなもので重要だけれど、そこが到達点ではなく、その先に地域支援への移行があるはずだと気付いたのです。退院を意識し始めます。

### 「地域支援」を模索

そこで私は、相談支援事業所の方やヘルパーさんなどと一緒になってグループワークをして、地域支援をできるようにするにはどうしたら良いのか教えて下さいと言っていました。

退院したいという「本人を真ん中にしていろんな立場・役割を持った方々が一堂に会して一緒に考え、一緒にやっていくのです。どんな協力ができるか、お互いに出し合うのです。その結果、地域支援につながっていききました。勿論、その後も入院を繰り返す方もおられます。でも、諦めずに視点を変えて地域生活つなげていきました。

### 入院患者を確保する必要がある精神科病院の経営責任はなに

こうした中で、気が付くと、私は精神科病院が経営的に必要

な入院を、ひたすら減らす方向に一生懸命になっていたのです。

私は、現在精神科病院の院長です。認めて頂ける良い病院の一つだと思っています。しかし、経営責任も求められます。病院の職員は、何よりも患者さんの役に立ちたいと頑張ります。入院患者が増えることが良いことになるのです。しかし、少ない人員で担当することもあり、安全を保つために「隔離や身体拘束」も、正式で標準的な治療方法としてあり続けています。

### 私は、「治療」に留まらず「地域での生活」の支援へ

私が学び追い続けてきたのは、まず「病があるのではなく、生きる悩みがある」と捉えることです。そして、精神疾患の治療という視座に留まらず、病気がある中で、一人の人としての生活の支援をし、人とのつながりの保たれている地域で生きていくことを目指すことです。

### 御荘の「取り組み」に憧れ

私が、6月から行く愛媛の御荘「診療所」は、かつて御荘「病院」でした。つまり、入院ベッドを持っていました。しかし、町と連携して居場所をつくり、少しずつベッドを減らして地域支援に移行していったのです。この取り組みを知り、憧れ、一緒に目指したいと思います。